

## 卒業生有志が活動開始 遺愛学院本館工事を支える会

◎ 2018年8月19日 3時00分



母校改修工場の費用を支える活動を目指す会員（前列中央が船矢会長）

遺愛学院卒業生有志がこのほど、2019年度に始まる同学院本館（杉並町23）の改修工事費用を支援する会を設立した。18日に船矢美幸会長（85）＝1952年卒＝ら6人が市内で初会合を開き、来年4月にチャリティー講演会を開くなど活動内容を確認した。

同学院本館は1908（明治41）年1月に完成し、2004年に国の重要文化財に指定された。老朽化が進むため改修が決定。同学院創立150周年と

なる24年度の完成を予定している。

昨年東京で開かれた同窓会などで工事費用支援の機運が高まり、今年6月に「遺愛学院本館改修工事を支える会」を立ち上げた。同会事務局の藤田道子さん（62）＝74年卒＝は「工事費用総額が約13億円といわれる、学院負担は約3億円と聞いている。いろいろな活動で得た収益を全て工事費用のため寄付したい」と話す。現在の会員は函館、東京などの約40人で、今後も増えるという。

事業内容は、ホームページや会報で本館の歴史や重要性、工事状況などを知らせ、バザーなどのイベントを開き募金活動を行う。その一環として来年4月21日午後2時から同学院講堂で、会員で講師の田辺鶴瑛さん（62）＝74年卒＝が「ハリス夫人物語」と題して講演を行う。米国人宣教師で領事も務めたM・C・ハリス氏の妻フローラ・ハリス（1850～1909年）の生涯を聞かせる。

船矢会長は「少女時代に学び得た誠実、犠牲、奉仕の精神は、今でも仕事や活動に現れる。国内外で活躍する卒業生は空を見上げると同じ気持ちになれると思うので、会に賛同してほしい」と呼び掛けている。（山崎純一）